

2050ゼロカーボンみのわ

ゼロカーボンシティ宣言

地球温暖化による気候変動は、近年、国内外で異常気象による災害や海面上昇、農作物や生態系などに大きな影響を及ぼしています。

今後、地球温暖化の原因である温室効果ガスの排出が今の状態で続けば、巨大台風や予想を超える豪雨などによる風水害が増加する一方で、猛暑による水不足や食糧不足、生態系への大きな影響等が懸念されることから、一人ひとりが現状を認識し、主体的に地球温暖化対策を行うことが重要となっています。

2015年にパリ協定が合意され、IPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書においては、「気温上昇を1.5度に抑えるためには、2050年までに二酸化炭素（CO₂）の実質排出量をゼロにすることが必要」とされています。

また国においては国会で「気候非常事態宣言」が採択されるとともに、長野県でも「ゼロカーボン戦略」を策定するなど、一日も早い脱炭素社会の実現を目指すこととされています。

箕輪町は稲作、酪農、果樹栽培などを中心とした農業、上伊那地域の広範囲にわたり飲料水を供給し1万本のもみじの紅葉で賑わう箕輪ダムもみじ湖や他に類を見ない赤そばの里などの絶景、県内有数の工業製造品出荷額を誇る製造業などを中心とする商工業が盛んな地域であり、自然豊かで調和のとれたまちです。このような豊かで魅力あふれるまちを次世代に受け継いでいくことは、今を生きる私たち一人ひとりの責務です。

こうしたことから町では「箕輪町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）及びアクションプラン2022」を策定し、町民・事業者・行政等多様な主体が連携し、環境・経済・社会における地球温暖化の課題を主体的に解決し、2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」へ挑戦することを、ここに宣言いたします。

令和4年（2022年）7月3日

箕輪町長

白鳥政徳